

令和7年度 自己評価結果公表シート

幼保連携型認定こども園ほうざい保育園

1、評価項目の達成および取組状況

評価項目	取 組 状 況
Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適性	・職員間での報告、連絡、相談を徹底の重要性を全体で再確認。伝達等の漏れがないよう各自心がけホワイトボードの活用、口頭ではなく必ずメモ、記録に残すよう対策を立てた
Ⅴ 地域の自然や社会とのかかわり	・今年もり環境教育を行い、環境について考える機会を作っている。環境講演会や講座以外にも意識して、園の周りの自然について子ども達に伝えるようになった ・地域社会との繋がり・関わりでは地域の開催する「とごらへ合戦(くらべ)」に発表参加し地域の小学生・少年少女・高齢者との関わりがあった。
Ⅵ 保育の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	・些細な事でも担任・副担任で問題解決に向けてよく話し合っており、連携を取るように保育者一人一人が心がけている。また、そのことが普段の保育中に出来る研修・研究だという事に気づけた
Ⅷ 地域における子育て支援	・子育て支援担当以外の保育者も来園された方が心地良い場所であるように子ども達と一緒に明るく挨拶したり、声をかけたり園に入りやすい雰囲気作りを心がけている。

2、総合的な評価結果

幼保連携型認定こども園ほうざい保育園として 0 歳から就学前までの一貫した教育・保育を一体的に連続して行うことを目標とし、今後は今まで以上にカリキュラム・マネジメントに努めていきたい。

行事では、多様な体験を通して、子どもたちの発達に即した主体的・対話的で深い学びが実現できるよう計画し・立案し、子どもたちが楽しく本来の力が十分に発揮できるように実施できた。

認定こども園に移行し、1号認定の定員増により入園児も増加傾向にあるが、そのような中でも、丁寧できめ細やかな保育を行うために、一人ひとりの子どもをしっかりと見据え、ゆとりある保育を実践していきたい。

職員の資質の向上を目指し、園内・園外研修や外部講師を招いての研修を積極的に多分野において行いました。

職員の福利厚生充実、処遇改善を行い、働きやすい環境、働き甲斐のある環境作りに努めました。

また、法人の目指すインクルーシブな保育の実践として、ほうざい保育園内に「こども発達支援あっとおーる」を開設し子どもの困りごとへの対応を専門職を交えて行っています。

3、これから改善したいこと

評価項目	具体的な取組状況
Ⅱ 保育の在り方・ 幼児への対応	・クラスの課題や乳幼児個人の課題が興味関心に結びつかない現状も見受けられることもあったので、乳幼児個人の興味関心は何なのか、必要なこと、モノは何かを再考し活動が意欲的となるよう計画していきたい。そこで、デイリープラン、行事の見直しを行った。来年度は年間指導計画案を修正していく。
Ⅳ 保護者への対 応・守秘義務	・記録の大切さについて各保育者の自覚が育っている。園としての記録事項及び保存期間の明確な基準づくりを来年度に向けて取り組みたい。
Ⅵ 保育の専門性に 関する研修・研究へ の意欲・態度	・研修に自己課題を持ち、積極的に取り組み、報告もできている。ただし、興味・関心の幅が広がっていないことが分かったので、行事等の見直しを行い、業務量と質の改善を図り興味や関心の幅を広げていきたい。
Ⅳ 保育の在り方・ 3歳未満児への対応	・3歳以上児クラスを受け持つ保育者が3歳未満児の自己評価を行うと、評価が低くなってしまう傾向があるが（逆も同様）、月齢や年齢ごとの対応を理解できていれば十分である。3歳以上児クラスの保育者は3歳未満児の、3歳未満児クラスの保育者は3歳以上児の評価項目に目を通すだけで、自己評価は点数で行わず課題や良くできていることを記入する。